

「第1回 大月市人口問題・地域活性化を考える市民会議」

会 議 概 要

日 時 平成27年1月24日（土） 午後1時30分から午後4時30分まで
場 所 大月市民会館 4階会議室
出席者 石井市長、委員16名（4名欠席）
天野太文、小俣理美、梶原崇照、小鷹侑子、三枝良光、佐藤茂幸、志村淳、
志村賢二、鈴木昌則、新田澄郎、福嶋尚美、藤井真弓、星野喜忠、
三木範之、武者稚枝子、渡辺勝
大月市企画財政課上條課長、企画担当石井L、榎本、鈴木、堀内
（冒頭のみ）報道関係者、毎日・読売・山日

1. 委嘱状の交付

2. 石井市長あいさつ

本日は、大変お忙しい中、お休みの中、委員の皆様にはご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から市政運営に対し、特段のご理解とご協力をいただき、今回は、大月市の人口問題・地域活性化を考える市民会議の委員へのご快諾をいただき、深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、昨年5月8日の「日本創生会議・人口減少問題 検討分科会」が、「ストップ 少子化・地方元気戦略」を発表し、その人口予測では、将来、全国の多くの自治体が人口減少により消滅するとの内容から、国・各自治体も、緊急課題として対応を迫られることとなりました。その中で、大月市の総人口は、2040年（平成52年）には、1万3千177人となり、その中の20歳から39歳までの女性人口は、71.4%減少し、698人になる、大変厳しい推計値が公表されました。これらの推計は、今後のまちづくりにおいても大きな課題となっております。

国において、昨年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定するとともに、12月27日に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定し、地方創生先行型の交付金を含む平成26年度補正予算を組んだところであります。

本市も人口問題等の対策につきましては、早急に独自の施策を進めるため、全庁・全職員体制で検討に取り組むこととし、国の動きに先行する形で行っておりますが、私を委員長といたしました「大月市生きがい創生委員会」を昨年10月に立ち上げるとともに、市民の皆様からのご意見を求めるために、市民会議を立ち上げる計画を立てさせていただきました。

市の人口問題、また地域活性化は、行政だけでは解決することが大変難しい問題であり、企業や市民の皆様とともに、議論を進めて行く必要があると考えております。そう

した中、今回の市民会議は、さまざまな年代層、地域、職業等、踏まえて人選をさせていただきました。この問題につきまして、みなさまからの幅広い視野でのご意見ご提言をいただきたいと考えております。

この会議は、それぞれ年代や職域を越えた大月市の将来を考えた大変重要な会議と位置づけており、皆様方にはどうか活発なご意見をいただきたい。そしてお互いの思いを語り合えるそんな会議にしていただきたいと思いますこのように思います。

そんな矢先、先日、石破地方創生大臣からもそれぞれの市町村長に届いた手紙の中に「各地方公共団体が主体性を発揮しつつも様々な年齢層の住民を始め、産学労等の関係者の意見を広く聞くことが大変重要である。」と手紙に示してありました。まさに、この会議がその役割を担っていただけると期待をしております。未来の大月市が、明るく希望が持てます「市民目線」でのご意見をお願い申し上げます。

私どもは常々市民総参加の状況を目指しており、今後もこの大月市の活性化、地域にある様々な資源を活用しながら、地域に住む皆さんが英知を結集しながら、将来あるまちづくりを目指していければと考えております。この自然をはじめとします大月市内には、色々な資源があります。

特に市民の底力、市民の持つ潜在能力というものは、非常に素晴らしいものがあると考えておりますし、自然が与えていただける色々な要素、首都圏から近い位置づけ、こうしたものを地域の活性化に向けて意見をぶつけ合ってまいりたいと考えておりますので、よろしくようお願い申し上げます、大変簡単ではありますが、挨拶とさせていただきます。

3. 職員紹介

4. 委員紹介

5. 議長及び副議長選任

事務局にて選出案があれば、それに同意したい旨の発言があり、事務局案として議長を星野喜忠委員に、副議長を佐藤茂幸委員にと提案したところ、全会一致で承認された。

○星野議長あいさつ

石井市長から委員を受けるにあたり条件を2つ出しました。1つは、こういう会議は、官が先に目的を決めておいて民間の意見を聞いただけという結論ありきの会になりがちであるが、そういうことはしないでほしいということ。もう一つは、大月市内外のトッププレーヤーを集めてほしいと要望しました。皆さまの顔を拝見し、色々な職域や地域の方、年代の方を集められ網羅できている会であると感じました。私が思うことは、何か一生懸命その道で仕事をしている方に、この会に出て発言をお願いしたいという

ことであります。

この会に与えられた課題は、日本中でやっています。行政も政治もどうにかしなくてはと思いながら出来なかった課題です。すべてが解決は出来ないかもしれませんが、大月をどうしていこうか考えた時に、官製の会ではなく、出来れば市民だけでやりたいと思いました。しかしそれは難しいので、事務局にもお願いする中で、活発化していく会としたいと思っています。大月の将来はなかなか明るくはありません。街なか静かすぎて、元気がないと感じます。これは多岐に渡った問題であり、人口や子育て、教育と色々な問題を考える必要があります。

これからの提案であります、いくつかのジャンルが出て来ると思います。その際には皆さま全員から意見を出してほしい。21世紀は多様性の時代であると言われております。その中で、最終的にどうしていこうかという選択は、行政の手で求められると考えると、行政が判断するための材料をディスカッションすると考えていきたい。

私ごとであります、昭和42年に大学を出て会社に入り、15年前に生まれた家のある大月に戻ってきました。この会の中では、大月に住んでいる方々と、切り口が違う見方で大目を眺められる方の意見を大事にしなければならないと考えます。ここにいる皆さんだけでなく、この問題であったら、この人を呼んで意見を聞いてみようとも考えています。

皆さんから大月への思いや意見を聞くことが大事であります。まとまらないかもしれないが、ある程度方向性は取れるのではないかと考えます。その答えを市長へ答申できればと思っています。委員の皆さんには1回出席されたら、1回は発言されたい。

6. 会議内容

(1) 市民会議について（会議の名称の検討）

- ・各委員がメールで事務局に送付し取りまとめ、次回会議（平成27年2月26日開催予定）で決定する。

(2) 大月市の現状について

- ・平成7年度からの人口減少の理由等分析結果について、具体的な資料等の提示を行う。
- ・空き家実態調査について、山梨県と大月市の調査結果に基づく空き家率の違い等を担当課に確認し、詳しい情報を提出する。

(3) その他

- ・第2回会議 平成27年2月26日（木）19時から
市民会館4階会議室で開催予定。
- ・事務局は、市民会議の進め方・意見・質問等について、委員からメールを随時受け付け、取りまとめたものを委員にフィードバックする。

- ・今後の会議の進め方は、星野議長、佐藤副議長で決めていく。
- ・会議は原則非公開とする。